



WEEKLY REPORT

FUJIEDA ROTARY CLUB

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2620

第1527回

例会：毎週水曜日
小杉苑
藤枝市青木2-2-48
TEL 054-641-3321

事務局
藤枝市青木1-9-16
TEL 054-647-2300
FAX 054-647-2040

Bhichai Rattakul
RI President, 2002-03

2002-2003年度RIテーマ：慈愛の種を播きましょう
松葉会長テーマ：会員相互の友情と連帯を深めよう

会長：松葉義之 副会長：渡辺篤司 幹事：村松英昭 副幹事：小宮弘一郎



愛は人生の劇場の余興ではなく、
ステージ全体で繰り広げられるもの。

<ソング> 奉仕の理念

<ソングリーダー> 池ノ谷 敏正君

会長報告

松葉 義之君

一番茶のシーズンも終りに近づいてまいりました。連休には一族で御前崎へ出かけました。茶園の広がる牧の原台地の真ん中を走り清々しい“風薫る五月”を満喫いたしました。先週末はクラブのBC会のゴルフ、新緑のなか好天に恵まれて素晴らしい一日でした。

お茶の事と云えば最近また新しい事を知りました。過日知人の法事で掛川市倉真にある「余楽禅院」に参りました。倉真城跡に建つこの寺の静かな佇まいは京都洛北の雰囲気を感じさせます。境内には掛川市の保存樹木に指定されている樹齢400年のスイリュウヒバ(ヒノキ科)と樹齢250年と云われるサザンカの大木が見事です。その本堂の左側に立派な胸像が建っていました。『杉山惣平翁像』とあり脇の史碑に次の事が刻まれていました。《翁は明治38年この地に生れ地元の学校を卒業して茶生産業に従事し、高品質を求め続けた。昭和初期には品評会で数々の優秀賞を受賞した。戦前からは指導員として県の茶農協関係に勤務し生産家の指導に情熱を傾注した。昭和39年定年退職後ハラダ製茶に入り掛川工場長に就任。昭和41年茶園経営研究の為に内外の茶産地の視察を行う。台湾、屋久島の各地を踏破した結果屋久島に茶園経営の目的をつけ、当地産業の発展に寄与する決意

を固めた。昭和42年屋久島に取得した地に播種、43年更に10余Haの土地購入、45年初の荒茶生産実現、その後台風や塩害等により苗木の全滅とこれの補植等幾多の困難を克服、産地化に成功。48年念願の大型製茶工場が落成した。この間49年からの3年間は毎年南米サンパウロに出向き滞在してこの地の技術指導をおこなう。昭和52年退職後は茶手揉保存会にて活躍、平成2年県茶手揉技術無形文化財保持者認定を受ける。》

碑文を読みこの杉山翁や蓮華寺池畔に顕彰碑の建つ中山金作翁のように産業振興に情熱を燃やした先人が各地に居ると思いました。郷土の立派な先人の事を掘り起こし、副読本として学校で活用するなど若い世代に伝える事が今こそ大切ではないでしょうか。

世楽院ご住職西塚寛光師のお話しですと屋久島にも翁の立派な顕彰碑が建立されているとの事です。

屋久島旅行の折には是非訪れてみるつもりです。折角の機会なのでその先の倉真温泉、そして地名に惹かれてその奥の下松葉、上松葉まで行って来ました。

正月に帰省する人を迎えるため集落に入るトンネル口に立てられる巨大な門松が新聞紙上に紹介された事がありました。温泉郷のすぐ近くでは第2東名の大工事が進められていました。

幹事報告

村松 英昭君

地区協議会に多数の出席ありがとうございました。

インターアクト海外研修について御案内が届いています。

わかふじ国体 100 日前イベント開催のお知らせが届いています。

出席報告

平田 宗太郎君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
30 / 46 65.22%	36 / 46 78.26%

(1) 欠席者 (事前連絡とメーカーキャップをそうぞ)

後藤君 鈴木廣君 仲田廣君 橋本延君

増田君 水野君 村松宏君 望月志君

池谷君 村松弘君 仲田晃君 鈴木舜君

浅川君 板倉君 杉浦君 山田君

(2) メーカーキャップ者

櫻井龍太君 (藤枝南) 水野義猛君 (焼津南)

岩田 規君 (焼津南) 杉山静一君 (焼津南)

大塚博己君 (焼津南) 橋本延一君 (焼津南)

村松宏一君 (焼津南) 小宮浩一郎君 (焼津南)

望月志郎君 (焼津南) 鈴木廣利君 (焼津南)

栗原 毅君 (焼津南)

スマイルBOX

小宮 弘一郎君

会員バースデー、結婚祝ありがとうございました。

大塚博己君

夫人誕生をお祝いして戴きまして。

杉山静一君

気がつかなくてすみませんでした。今後は心を入れかえて努力します。

平井 実君

本日の卓話者として

櫻井龍太君

スマイル累計額 858,628円

卓話

【近年のロータリーについて】

櫻井 龍太君



R.Cは「奉仕する団体」ではなく、「奉仕を志す人々の集り」と云われて居るが、原点は職業倫理の追求・職業道德の高

揚、いわゆる「職業奉仕」であります。しかし、近年の国際ロータリーは、世界社会奉仕関係のプログラムを、大幅に展開してきた為に、R財団を通じての資金調達と会員増強並びに、規程(定款・細則等)の改訂が行われ、職業奉仕が希薄になっていると私は考えて居ります。

規程の改訂の主なものを列挙すると、次のとおりであります。

1. 区域限界の緩和(二階建・三階建)
2. 職業奉仕(クラブの職業奉仕を追加)
3. 出席補填の期間延長(前後2週間)
4. 2001年の大改訂
 - (1) 会員の種類を2種に(正会員・名誉会員)
 - (2) 1業種1名の制限撤廃
 - (3) 出席不良会員の身分自動終結規程削除
 - (4) クラブ休会を増加(年2回を4回)
 - (5) 出席免除の条件等を理事会で決定することが出来る
 - (6) その他

以上のとおりですが、私個人としてはロータリー本来の厳しさ、ロータリアンとしての誇りが希薄になりつつあると思うが、皆様は如何がでしょうか。

(担当 / 松寄)